第14章　純資産

14－１　資本金の増加

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　「資本の元入」の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「資本金」勘定（純資産）

（１）資本の元入

商店を開く際には、仕入代金や従業員の給料など、開業資金(かいぎょうしきん)や運転資金(うんてんしきん)が必要となります。通常、お金は店主が自分の個人的なお金から出資することになります。この商店の事業資金として出資することを**資本の元入**(もといれ)といいます。この出資額は「**資本金**(しほんきん)」勘定（**純資産**）で処理します。

例題14－１　**開業にあたり、現金3,000円を元入れした。**

資本の元入により、店主個人の現金は減少しますが、商店のお金は増加しますので、現金勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	**3,000**	**資　　本　　金**	**3,000**

（２）資本の追加元入

商店の開業後に資金が必要となり、店主が追加してお金を出資することを**追加元入**(ついかもといれ)といいます。この追加的な出資額についても「**資本金**」勘定（**純資産**）で処理します。

例題14－２　**店主から、現金2,000円の追加元入があった。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	**2,000**	**資　　本　　金**	**2,000**

14－２　資本の引出

【重要性：A】

【資本金勘定で処理する方法の重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

①　「資本の引出」の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

③　特に、決算整理で行う処理（決算整理仕訳）に注意しよう！

主な勘定科目

「引出金」勘定（資本金のマイナス）

「資本金」勘定（純資産）

（1）資本の引出

個人商店では商店の現金などを店主個人のためや家族のために使うことがあります。これを**資本の引出**といいます。なお、商店の現金だけでなく、当座預金、商品など他の資産を使用した場合も資本の引出となります。

資本の引出の処理方法としては、①「**引出金**」勘定で処理する方法と、②「**資本金**」勘定（**純資産**）で処理する方法がありますが、全商簿記３級では主に①「引出金」勘定で処理する方法が出題されていますので、②「資本金」勘定で処理する方法は参考として下さい。なお、「引出金」勘定は「資本金」勘定のマイナス（資本金のマイナス＝**借方科目**）を意味する評価勘定です。

例題14－３　**店主個人の所得税1,000円を商店の現金で支払った。**

①　引出金勘定で処理する方法

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
引　　出　　金	**1,000**	**現　　　　金**	**1,000**

②　資本金勘定で処理する方法（参考）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
資　　本　　金	**1,000**	**現　　　　金**	**1,000**

例題14－４　**電気代として2,000円が当座預金から引き落とされた。なお、このうち、800円は店主の家事のために使われたものである。**

商店の事業で使用した電気代1,200円は、「水道光熱費」勘定で費用として処理します。また、店主の家事のために使用した分800円は、資本の引出であるので費用として処理しません。

①　引出金勘定で処理する方法

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
水　道　光　熱　費	**1,200**	**当　座　預　金**	**2,000**
引　　出　　金	**800**		

②　資本金勘定で処理する方法（参考）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
水　道　光　熱　費	**1,200**	**当　座　預　金**	**2,000**
資　　本　　金	**800**		

例題14－5　**商店の商品1,000円を店主が自家消費した。**

店主が商品を自家消費（店主個人で使うこと）した場合、自家消費分は売上原価に含まれないので「**仕入**」勘定（**費用**）の減少として処理します。

①　引出金勘定で処理する方法

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
引　　出　　金	**1,000**	**仕　　　　入**	**1,000**

②　資本金勘定で処理する方法（参考）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
資　　本　　金	**1,000**	**仕　　　　入**	**1,000**

（２）引出金勘定の整理

資本の引出に関して、引出金勘定で処理する方法を採用している時に、決算にあたり、「引出金」勘定に残高がある場合、**「引出金**」勘定を「**資本金**」勘定（**純資産**）に振り替えます。この仕訳は、通常、決算整理仕訳として行われます。これにより、「引出金」勘定の決算整理後の残高はゼロとなります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
資　　本　　金	×××	**引　　出　　金**	×××

この結果、資本の引出に関して、「資本金」勘定で処理しても、「引出金」勘定で処理しても、決算整理後の「資本金」勘定の金額は同じとなります。

例題14－6　**決算整理前の資本金勘定残高は20,000円、引出金勘定残高は1,000円であった。**

①　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

引　　出　　金	1,000	資　　本　　金	20,000

②　決算整理

「引出金」勘定の残高1,000円を「資本金」勘定（純資産）に振り替えるために、貸方に「引出金」勘定、借方に「資本金」勘定として仕訳を行います。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
資　　本　　金	**1,000**	**引　　出　　金**	**1,000**

引　出　金

1,000	**1,000**

資　本　金

1,000	20,000
残高 19,000	

③　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

		資　　本　　金	19,000

第14章　純資産　問題

問題14-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　店主から現金500,000円の追加元入があった。

②　火災保険料80,000円を現金により支払ったが、そのうち30,000円は店主の自宅にかかる火災保険料であった。なお、資本の引出に関して引出金勘定を用いている。

③　固定資産税60,000円を現金で支払ったが、そのうち20,000円は店主の自宅にかかる固定資産税であった。なお、資本の引出に関して資本金勘定を用いている。

④　店舗の商品10,000円を店主が自家消費した。なお、資本の引出に関して引出金勘定を用いている。

⑤　決算にあたり、引出金勘定50,000円を整理する。

第14章　純資産　答案用紙

問題14-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				

第14章　純資産　解答解説

問題14-1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	現　　　金	500,000	資　本　金	500,000
②	保　険　料	50,000	現　　　金	80,000
	引　出　金	30,000		
③	租　税　公　課	40,000	現　　　金	60,000
	資　本　金	20,000		
④	引　出　金	10,000	仕　　　入	10,000
⑤	資　本　金	50,000	引　出　金	50,000

問題14-1　**解説**

①　追加元入があった場合、「資本金」勘定（純資産）の増加として処理します。

②　店主の自宅にかかる保険料は、個人商店の事業に関係しないので、資本の引出となります。したがって、指示により「引出金」勘定で処理します。

③　店主の自宅にかかる固定資産税は、個人商店の事業に関係しないので、資本の引出となります。したがって、指示により「資本金」勘定（純資産）で処理します。

④　店舗の商品を店主が自家消費した場合、資本の引出となります。したがって、指示により「引出金」勘定で処理します。なお、これにより商品が減少しますが、それを「仕入」勘定（費用）の減少として処理します。

⑤　引出金勘定を用いている場合、決算において、「引出金」勘定残高を「資本金」勘定（純資産）に振り替えます。